

香楠会



南門上空から見た鳥栖高校

2021
10月
[第19号]

| | |
|---------------|-----|
| 同窓会長・学校長あいさつ | 2 |
| 各界で活躍する同窓生 | 3 |
| 地元で活躍する同窓生 | 4 |
| なつかしき恩師 | 5 |
| 母校の思い出 | 6~7 |
| 鳥栖高校・香楠中学校はいま | 8~9 |
| お知らせ・ご案内 | 10 |

◆題字／原 春代(旧姓 天本 雅号・春景 昭34年卒)
◆表紙絵／日山 軍記(昭35年卒)

ごあいさつ

香楠会(鳥栖高校同窓会)会長

指山 清範(昭和59年卒)



香楠会の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて新型コロナウイルス感

ただいま!!

校長 松雪 誉



この会報が香楠会会員の皆様のお手元に届く涼秋の頃には、コロナ感染症が収束に向かっていることを願っています。

香楠会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。私は、今年の4月から鳥栖

染症はいまだに世界中で猛威を振るい、それに伴う戦後最大の経済の落ち込みという国家的な危機、まさに国難といえる深刻な状況が続いています。また瞬く間に感染が拡大するなど現代社会の脆弱さが露見されたとも言えるでしょう。

今後、コロナとの共存を余儀なくされる新たな日常の中

高校・香楠中学校の校長を拝命しています松雪です。昭和57年3月に本校を卒業した香楠会会員です。

保健体育教師として鳥栖高

校で後輩の指導に当たりたいとの強い願いは叶いませんでしたが、一昨年副校長として初めて母校に勤務することができました。そして今年、1年間の他校での勤務を経て再び、校長として戻ってくることにできました。

で、人々の命と健康が守られるよう、一日も早いコロナの収束と併せて経済の正常な形への再生を実現し、世界の平和と安心を取り戻せるよう祈らずにはおれません。さらに加えて言えば医療関係など、ポストコロナの未来を切り拓いてくれる人材が卒業生の中から出現してくればと願っています。

香楠会の会長を引き継いで

8年目。香楠会の総会も昨年より2年続けて書面による議

香楠会の皆様「ただいま!!」

母校に校長として戻って来ることができた幸せに感謝しながら、後輩たちのために学習環境を整え、一人一人の夢実現のために精一杯頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

さて、本校は『知を愛し、和を敬い、心を培え』という校訓の下、「高い知性と豊かな人間性、逞しい心身を培い、高い使命感を持って社会の発展に貢献する人材を育成する」との教育目標を掲げて日々の教育活動を行っています。

決となり、また大同窓会も1年延期させていただきました。なかなかお目にかかる機会がなく、まさかこんな事態になろうとは夢にも思わず残念でなりません。ただ大同窓会につきましては本年は開催の方

会員の皆様には、不安や戸

惑いもあるかと存じますが、

昭和2年に鳥栖町ほか四ヶ

町村組合立高等学校としてスタートした本校は、その後佐賀県に移管され、男女共学となり、定時制や商業科、家庭科、家政科の設置・閉科を経て、現在の全日制・普通科の高校となりました。また、平成19年には香楠中学校が併

設されて中高一貫教育校となつています。来年度からは、中学・高校ともに県外からの生徒募集も始まり、令和5年度からの新制服導入を目指すなど、時代に合わせた変化を続けています。

気を緩めることなく、手洗いやうがいやマスクの着用はもとより、ご自身でできる対策は確実に行っていました。すようお願い申し上げます。

結びに香楠会会員の皆様の

ご多幸ご健勝と鳥栖高校・香

楠中学校の益々のご発展を心折念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

しかしながら、今後とも、地域の人に愛され期待される学校であり続けたいと考えています。

最後になりましたが、香楠会会員の皆さまの益々のご健勝とご多幸を祈念するともに、思い出多き学び舎で学ぶ後輩たちに一層のお力添えをお願いしてご挨拶いたします。



各界でご活躍の同窓生

「マジですか!」の楽しみ

平成6年卒(第46回生)
元JICA在外事務所員 古賀 一志



は見えず、どんな仕事をしたのか想像できませんでした。毎日友達とくだらない話をし、朝家を出る前に家で見えた父の「^{※1}英雄三」が学校の正門に立って生徒指導をしていたり、先日亡くなった古賀^{※2}裕彦さんの鳥栖高校での講演後に、勇氣ある友人が3人がかりで腕相撲勝負を挑み、敢えなく負けてしまったたりしたことなどが思い出されます。

私は小さな時から外国のサッカー選手の名前と響きが好きで、大学ではフランス語を専攻することになり、カセットテープで巻き戻しと再生を繰り返してフランス語の勉強をしていました。留学先のフランスではよく言われる「多様性」を肌で感じました。友人は、ドイツ、アルジェリア、レバノン、モロッコ、ノルウェーなどの出身で、異なる背景を持つ人々が共生する社会がありました。

長い学生生活を終え、長野県のJICA青年海外協力隊駒ヶ根訓練所でフランス語講師の仕事を始めました。毎日がプレッシャーと失敗で、3か月弱の短期間でJICAボランティアが派遣国で会話ができるよう、1日5時間の授業と5時間の授業準備、夢の中でも授業をする日々でした。休みにはアフリカの国々に旅行したり、開発途上国の話を聞いたりする内に、私も現場を見てみたいと思うようになり、JICA在外事務所員としてアフリカ大陸の数か国で駐在することになりました。まさか自分がアフリカ大陸で生活するとは思ってもいなかったもので、全く先が読めませんでした。興味に従い動いてみると、意外な所に降り立つものです。滞在した国々では発見の連続でした。砂漠の砂の影響で天気予報が「埃」^{ほこり}。その後のスコールで水路からワニが出没。動物園で野放しのダチョウの大群に恐怖。公園で走ってたら巨大な鹿に遭遇。日本では希少なマンゴーなどの果物が道端で激安で手に入ります。そこで暮らす人々の生活はといえば、お金が入る度にレンガやブロックを買い足し、時間をかけて家を建てる。ビルの解体は重機ではなくハンマーで叩き壊す。深さ30メートルの井戸もスコップで手掘り。故障した車をリヤカーで運ぶ。ガソリンはジュースのようにペットボトルや瓶で売る。伝染病は普通にある。親指ほどのウインナー一つで山盛りのご飯を食べる。電気や水道の普及率が低く、水や電気がある場所に移動して暗いうちから洗濯などの家事をした上で、昼間も愚痴もこぼさず働き、米を運ぶために何日も牛車を

引いて歩きます。病気で亡くなる子供がとて多いのも現実です。

知らないことだらけの中での経験や発見、失敗は、今は私の宝物です。自分が持っている常識や社会的・職業的通念は全て限定的なことで、場所が変われば全く通用せず、今の目の前に広がる景色や身の回りに起こることは、全てが唯一無二なのだと思えるようになりました。行動から得た経験は、私の身体に深く残っています。

未来は予測できず、どんどん変化していきます。高校を卒業して以来、常識や価値観をひっくり返されたように、これからも自分の常識の中にとどまらず、好奇心を持って新しいことに挑戦し、新しい感覚を得ていきたいと考えています。

※1 体育科の古賀雄三先生 鳥栖高校勤務
※2 柔道のオリンピック金メダリスト
旧北茂安町出身



上段左端

バブル経済がはじけ就職氷河期になりました。以来早27年が経ち、世の中は全く違う景色になりました。その間に私が経験した今でも好きな感覚を考えると、パンや揚げ物の甘い匂い、果物や野菜の匂い、市場の人々の声や動物の鳴き声、響き渡る子供達の笑い声や泣き声、埃っぽい匂いの空気、常に聞こえるクラクションの音、雨の前に吹き荒れる砂嵐、暴動で響き渡る銃声、物や家に入った砂のザラザラとした感覚、静かな朝と新鮮で美味しい空気などが頭に浮かんできます。日本では見られない光景かもしれません。

私は今、国際協力活動を始める方々の語学学習をお手伝いする仕事をしています。高校の頃は将来のこと

地元でご活躍の同窓生

転機、新しいステージへの挑戦

昭和58年卒(第35回生)
鳥栖市立田代小学校 校長 榎原 さゆり(旧姓:榎)



とのない事態に直面し、学校の舵をとることになりました。当たり前だった学校生活が制約され、三密を避けながら教育活動をどう行っていくか。正解のない難問に向き合い、子供たちが学校に通って学ぶ意味を問い続ける日々でした。

2020東京五輪は、五輪史上初めての無観客の中、新しい様式の五輪として歴史を刻みました。東京の緊急事態宣言下、過去の華やかな祭典とは一線を画すものとなり、オリンピックの意義も問われています。東京五輪の開催は、本来のスポーツの良さや新たな価値に気付く転機となるだろうなどと思いつながら、日本の多様性と和の文化を厳かに世界にアピールした開会式、金メダルを賭けた数々の熱戦の余韻にひたり、私は筆を執っています。

私は、現在、鳥栖市立田代小学校に勤務しています。私は、コロナウイルス感染症対策による全国一斉臨時休校の中、校長に就任しました。着任早々、これまで誰も経験したこ

学校の安全を守り、学びと居場所を保障する役割があることを、強く再認識しています。学校は、教えを提

供するだけでなく、子供たちが学校というコミュニティへ所属すること、他者と繋がり、多様な価値観や考えを学び、自ら学ぶ意義や楽しさを感じる大切な場所であると考えます。

私は、高校時代、野球部の専属アウンスを担当させてもらっていました。練習試合や大会予選の時の試合進行役です。当時の野球部は、NHK杯で優勝、甲子園出場も期待される実力がありました。県外の有名な学校も遠征しに来て、頻繁に練習試合が行われていたと思います。当時、監督をなさっていた平野監督に声を

かけて頂き始めたのですが、私には転機となる経験だったと改めて思います。

練習試合といっても野球部にとっては真剣勝負です。ましてや大会予選は勝ち進むことが目的です。ですから、皆が緊張感をもって集中して試合に臨めるように、その後押しができるようにと、野球のテレビ中継を見て、アナウンスのタイミングや話し方を研究しました。投手が投球動作に入る前までにアナウンスを終える、打者がBOXに立つ直前に名前を伝える、高めの声で歯切れよく発声するなど、自分なりに工夫して行っていたと思います。特に、選手交代の時は一度に多くの守備交代もあって難しく、交代がすらすらと間違えずに言えて初めて試合に貢献できるのだと、放送要綱を手によく練習していたことを思い出します。勝利試合後は、私も大変充実した気持ちだったと記憶しています。

自分が表現することで貢献するというこの経験は、新たな価値観に気付かせてくれました。活躍を支える側へ、考えの転換ができたことは、自分の幅を広げることに繋がりました。

校長となり、今は第一線で子供たちの指導にあたることはなくなりました。しかし、学校経営という新た

な役割を受けました。子供たちが学校で学ぶからこそ必要な教育活動を創り出すこと。そして豊かな教育のできる指導者を育成すること。私の転機であり、新しいステージへの挑戦です。

コロナ禍においては、常識や先入観からの発想の転換が必要です。「変わることを恐れない」「変化に柔軟に対応し、粘り強くやり抜く」

コロナ禍での一つ一つのチャレンジの中に、これからの新しい学校の姿や学び方が見えてくるはず。先生方と知恵を持ち寄り、よりよい取組みを模索しながら、情報化や多様性が急速に進む社会を生き抜くたくましい子供たちを、そして鳥栖を愛する子供たちを育てていきたいと思えます。

最後に、このような機会を頂いたことに感謝いたしますとともに、同窓生皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



卒業アルバムより 右端

なつかしき恩師



環境は「私」のミカタ

国語科 原 美由紀 先生

鳥栖高勤務
平成十二年四月〜平成十五年三月
平成二十六年四月〜令和三年三月

初めて経験したこと、決意したことがたくさんある鳥栖高校は、私にとって本当に大切な場所だと思えます。

今、こうして公立学校の教員をしているのは鳥栖高校での講師経験があるから。本当に何も知らない私を優しく見守り指導してくださった先生方、真面目に、そして楽しそうに全力で高校生活を送っている生徒たち、これからもこんな環境に身を置きたいと、教員になることを決意しました。そして、再びの鳥栖高校。持ち上がりで二回りの担任を経験。どのクラスも思い出深く、本当に密度の濃い七年間でした。

印象深いことはたくさんありますが、新聞部での活動もそれまでにない経験の一つです。主顧問として部活動を持つのがさえ初めてで右も左も分からないのに、翌年には「さが総文」が開催されるというタイミン。部員も新聞なんて作ったことない人たちがばかりで、一体どうなるのかと不安ばかりの出発でした。でも、多くの不安をよそに、部員の活動は積



幻の総体号

極的、何度も研修会に参加して作った新聞も好評価をいただきました。その本当によく頑張ってくれました。その翌年には、新型コロナ感染症の影響で高校総体が中止となり、例年通りの鳥栖高新聞「総体号」は未発刊。それでも、「自分たちの新聞を作りたい」とたった二人の部員は、取材から紙面の構成、記事作成まですべて一から作り上げてくれました。クラス掲示のみの発行となりましたが、その出来には心から感動しました。新聞を作るのは地味で大変な作業ですが、ものを作り上げる喜び、感動を味わえる素晴らしい活動です。

今回改めて、鳥栖高校には一人ひとりが活躍できる場があると感じました。そして一所懸命に何かに取り組んでいる人を応援する環境もあると思います。生徒の皆さんには、自分のやりたいこと、自分の目標、自分の夢を堂々と追いかけて欲しいと思っています。



鳥栖高校の思い出

保健体育科 津村 真美子 先生

鳥栖高勤務
平成 18年 4月〜令和 3年 3月

平成18年から、昨までの15年間鳥栖高校にお世話になりました。みなさんお元気ですか？今日は、7月23日（金）オリンピック開会式の日です。一ヶ月前にこの原稿依頼を頂きながらここまで引つ張ってしまいました。鳥栖高校を離れ四ヶ月しかたっていませんが、「なつかしき恩師」という原稿依頼に恐縮しつつ、「鳥栖高校勤務当初の思い出」を一つ書かせていただきます。

初めての担任は15HRでした。私に担任が務まるのだろうか？と不安を抱きながら、スタートしました。15HRの生徒は元気がよく、日々の生活は生徒たちの明るさに支えられっぱなしでした。思い出と言えば、何といたっても文化祭でしょうか。15HRは、校門装飾の担当でした。（このころ1年生は模擬店をやっています）企画の内容は、校門を動物で飾るといいうもの。お盆過ぎから教室でメインのキラリンの作成を始め、文化祭前日にはなか

なかの出来に仕上がりました。いよいよ「校門に飾りに行くぞ！」とみんな張り切って動物たちを持ち上げたところ、なんだか変な空気が漂いました。「ん？」どうしたのかと覗きに行くと、動物たちは教室のドアよりはるかに大きく、外へ出すことが出来なくなっていたのです。『即・解体!!』結局、長い首のキラリンは、なんとも無残な姿になってしまい「あーあ。」と嘆く生徒達。この空気を笑ってごまかそうと生徒のひきつった空気がなんとも可愛らしかったことを思い出します。（みんなさん元気ですか？）

この一年間は、たくさんの先生方にサポートいただき、素敵な時間を過ごす事ができました。本当にありがとうございました。

鳥栖高校は、今、2021鳥栖香楠祭に向かって動いているところでしょうか。生徒会のみならず頑張っていますか？当日までは、なんだかんだと問題が続き大変なことがいっぱいあると思いますが、生徒会を中心に組織を作り上げ、一生懸命活動している姿は鳥栖高校ならではです。その姿は、力強く純粹でいつも感動させられていました。今年もまた素敵な時間が始まりますね。生徒全員で2021年特別な鳥栖香楠祭を作り上げて下さい。

最後に、このような機会を頂いたことに感謝するとともに、鳥栖高校のますますのご活躍を心から祈念しております。

高校時代の良き思い出

昭和48年卒(第25回生) 西村(古賀)孝子



卒業後50年近く経ちますが、数年前の大同窓会の折

には、再会した同級生と一遍に高校時代に戻り、話しに花が咲きました。

一番の思い出は、文化祭・体育祭です。小さな中学校出身の私は、その規模の大きさや生徒主導の企画・運営に驚嘆しました。先生方からのダメ出しは、ほとんどなかったように記憶しています。文化祭では、英会話部に入部していましたが、英会話部自作の英語劇を行うことになりました。当時髪を長くしていた私は、日本からの留学生「大和撫子」という役を貰い、張り切って練習しました。初めての体育祭では、先輩方の「活入れ?!」にビクビクしながらも空手の形で応援合戦に取り組んだことも良い思い出です。三年の体育祭では、大規模なマスケットや壁画制作のための材料集めや段取りに四苦八苦しながらも和気あいあいと取り組み、出来上がった時の喜びはひとしおでした。体育祭後、「ファイヤーストームは男子だけ、女子は帰れ!」と言われながらもこっそり見ようとしたり

のを見つかり、渋々帰ったのも懐かしく思い出されます。一年の文化祭・

体育祭の活動で刺激を受け、私の学習方法にも変化がありました。私なりに一工夫して自主学習を始めました。数・英を中心に先生方に添削をお願いし、分かるまでとても懇切丁寧に指導していただきました。数学の授業では、「古賀が分かったならみんな分かったな。」とからかわれながらも、楽しかった記憶しかありません。

この高校時代の経験は、その後の私の仕事に生かされたように思います。お陰様で念願の中学校教師になることができ、先生方の温情あるご支援と自主性を育んでくださったことは、少しは生徒達に還元出来たのではないかと思っています。

最後に、早くコロナ禍が終息し、同級生と再会できることを祈るとともに、鳥栖高校の更なるご発展をお祈りいたします。



体育祭

たかが鳥栖高、されど鳥栖高

昭和58年卒(第35回生) 中山 直彦



昭和五十五年四月に鳥栖高校に晴れて入学しました。

その当時は、高校入試の合格者は新聞(別冊だったような)に掲載されていたように記憶しています。「個人情報」

云々で大騒動している現在では到底考えられないような緩い時代でした。ただ、晴れて入学したにもかかわらず、その年の三月まで親父が教鞭(その当時行っていたのは愛の鞭と思われる)をとっていたことが災いし、上級生から俗にいう「かわいがり」を受けることになりました。「お前の親父にはお世話になったもんな、お礼をたっぷりとせないかな。」と言って教室に入ってきたりしたものでした。上級生のいる教室横の廊下を歩くことなど恐ろしく、足が震えていました。また、このことを家に帰って親父に言うこともできず、悶々とした日々がゆっくりと過ぎるのを待ちました。「特にかわいがってもらったのは体育祭」でした。当時は1年生もリーダーが数名いて、無理矢理リーダーをさせられ、運動場

を何万周(たぶん十周ぐらい)も走らされ、拳句の果てには校歌や応援歌を何万回(たぶん十回ぐらい)声出しさせられました。

「腹から声を出せ」と怒鳴られました。1日で声は出なくなり、グランドに飾る「国旗」みたいな旗も相当作らされたのは鮮明に覚えています。それでも登校拒否(現在は不登校という)もせず何とかこうとか無事三年間で卒業しました。

大学に入っても、楽しみは通学途中の鳥栖駅のうどんぐらいで、体は鈍っていました。あるスポーツサークルの部員に「昼飯奢るから」と声をかけてもらい入部しました。ところが入ってみると、ギョーギョーギョー鳥栖高校の先輩方が沢山在籍されていて、脳裏に「虎と馬」が。が、その真反対で、その先輩方は優しく迎えてくれました。練習後半のマッチ(紅白戦)では、「鳥栖高」対「それ以外」で行うなど、鳥栖高勢力が覇権を握っていました。深夜の練習後も鳥栖まで一緒に帰るほど親しくしてもらいました。教師になって三十五年目(今年度から鳥栖高勤務)の今でもその中の先輩とそのスポーツを楽しむ継続することができています。さすが鳥栖高OB!

なお、現在も親父は老骨に鞭打ち健在です。

交友関係を築いた思い出の「場」

平成2年卒(第42回生) 富松 寛考

歌うなど、青春そのものでした。それ以外にも吹奏楽部の定期演奏会で中学時代からの同



今回の寄稿を機に、改めて母校を思いながら何を書くか筆筒の奥

に片付けていたアルバムを引っ張り出し考えてみましたが、私にとって鳥栖高校は今も続く交友関係が形成された思い出の学び舎です。

高校生活最後の卒業式後に担任の先生から贈られた「お前は高校生活を十分に楽しんだはずなので悔いはないだろう」との一言に集約されている通り、充実した3年間でした。その中でも高校生活を通じて特に思い出すのは勉強ではなく、事あるごとのイベントや行事ばかりです。2年生時の文化祭でクラス企画のイベントは、当時8クラス制の7組で、3棟の校舎の真ん中の一階部分が教室でその前を会場として教室内と外でリフティングや輪投げなど様々なチャレンジ競争をして盛り上がりました。生徒会活動にも携わり、特に体育委員長として3年生時に「Show Your Youth」のキャッチコピーで開催した体育祭運営はやりがいがありました。生徒会長が閉会式の挨拶時に「乾杯」を熱唱し各団長と一緒に

級生と一緒に司会をし、サッカー部の仲間がステージパフォーマンズをするなど思い出は次々に出てきます。

卒業後ですが、Jリーグ参画に向けたプロチーム誘致活動の一環で声がかかり、恩師や同級生とともに応援活動したチームが、今もサガン鳥栖としてあることは嬉しいことです。

卒業後もふとした時に母校を懐かしく思うことがあります。時代と共に内容が変わってもそれぞれが過ごした高校生活は人生において濃縮された時間であるとおつくづく実感します。妻は高校時の同級生で、娘二人も縁あって同窓生となり、今も集う同級生や後輩は鳥栖高校を通じて広がった関係です。活躍している同級生・先輩・後輩がいることを聞くと同窓生として嬉しく思える、私にとって鳥栖高校はそんな「場」です。



体育祭 左から2番目

鳥栖高校と私

平成7年卒(第47回生) 天野 勝博

勝博



あかつきむらくしんせだいわかきれきしをはじめなん。私の両親も鳥栖高校の

卒業生で、お盆や正月の席で当時を懐かしみ歌っております。

高校を卒業し四半世紀。人生の折り返しに差し掛かっている私ですが、過去に一番楽しかったころを問われるとやはり高校時代を思い起こします。私は鳥栖高校の所在地と同じ古野町に生まれ、小さなころからチャイムの音を聞き育ちました。幼少期の私たちにとって鳥栖高校は格好の遊び場。セキユリティーの強化された今では考えられませんが、敷地内での缶蹴りやグラウンドでの風揚げ、校舎内に侵入し屋上にのぼったりして遊んでおりました。

身近で家が近いからと志望し志の低いまま入学した鳥栖高校。入学式当日、担任の先生に大学受験の話をされうんざりしたのを覚えております。そんな私でも高校時代が一番楽しかったと言えるのはやはり友だちの存在です。バスケット部に入学し出会った友人たちとは毎日の練習はもちろん、休日も一緒。ほんの少し悪いことをした思い出は今でも鮮明に覚

えております。今でも家族ぐるみのお付き合いをさせて頂いており、一緒に築いた思い出や絆は一生のタカラです。

大学を卒業後、就職し現在は家業である精肉店を営んでおります。毎日店の前を登下校されている現役の生徒さんたちを目にしますが私の在学中と同じ制服やバッグを身に付けている姿を見ると嬉しく思います。

郷土愛を持ってしていると自負する私ですが、郷土愛が育まれたのも鳥栖高校の存在が大きく関係していると思います。全国や世界に偉大な方々を多く輩出。皆さんが輝かしい偉業を達成されているのを見ると同じ卒業生として我が身が恥ずかしくもあり、少しの誇らしさもおぼえます。

私は鳥栖の地に住み、暮らし続けることを選んだ者として、全国や世界で活躍されている卒業生の方々とこれから羽ばたいていかれる生徒さんたちが誇れるふるさとであり続けられるよう活動し、わが母校鳥栖高校を近くから見守り続けたと思います。



バスケットボール部の面々

鳥栖高校・香楠中学校はいま…

～知を愛し 和を敬い 心を培え～

* 令和3年3月 大学入試合格状況 *



南門から見た高校教室棟

🌸 国公立大学 103名

東京工業大学1名・お茶の水女子大学1名・横浜国立大学1名・金沢大学1名・京都教育大学1名
 大阪大学1名・大阪教育大学1名・島根大学1名・広島大学3名・山口大学2名・徳島大学1名
 愛媛大学1名・九州大学13名・九州工業大学6名・福岡教育大学3名・佐賀大学31名
 長崎大学2名・熊本大学12名・大分大学2名・宮崎大学1名・鹿児島大学4名
 神戸市立外国語大学1名・尾道市立大学1名・山口県立大学1名・下関市立大学1名
 北九州市立大学6名・福岡女子大学1名・長崎県立大学3名

🌸 私立大学 434名 (延べ人数)

慶応義塾大学1名・早稲田大学1名・中央大学2名・東海大学2名・法政大学1名・明治大学1名
 同志社大学2名・立命館大学4名・大阪工業大学4名・近畿大学14名・関西外国語大学3名
 国際医療福祉大学5名・西南学院大学42名・福岡大学104名・筑紫女学園大学20名
 久留米大学37名・九州産業大学46名・福岡工業大学57名・中村学園大学13名
 福岡女学院大学8名・西九州大学6名・崇城大学2名 など

全国総体への意気込み

体操部3年 田島 やまぶき



昨年から、コロナウイルスが猛威を振るい、今まで当たり

り前だと思っていたことがすべて一変してしまいました。私も大会に向けて練習を重ねていましたが、多くの大会が中止になり、目標を見失いそうになってしまいました。しかし、「ピンチはチャンス」だという言葉の思い起こして、今の自分をしっかりと見つめ直し、向上しようと決意しました。日々の生活や練習に取り組み姿勢を振り返り、体づくりを心がけ、技に磨きをかけるように努力をしてきました。その結果、無観客で開催された全国高校選抜の跳馬で優勝することができました。

今年はいくつかの試合が実施予定です。応援してくれている家族や仲間、そして尊敬している先生への感謝の気持ちを抱き、精いっぱい演技を戦いたいと思います。これからも体操部への応援よろしくお願い致します。

体操は自分との戦い

体操部2年 曾根崎 しずく



私は高校に入学して一年目、楽しみにしていた高校総

体は新型コロナウイルスの影響で中止になってしまいました。日々練習を積み重ねてきても試合が中止になるとメンタルがコントロールできず、嫌になるときもありました。しかし、三月には全日本個人総合があり、嫌になっていく場合ではないと思いい、自分のやるべきことをもう一度考えなおして真剣に練習に励みました。その結果、全日本では予選通過し、決勝に進むことができました。今までの目標にしていたNHK杯への出場も決まって、試合では平常心で落ち着いて演技できました。ノーマスで演技を終えたことは、大きな自信に繋がりました。今年には高校総体が行われ、県総体では団体と個人で優勝することができました。残念ながら九州総体は中止となりましたが、インターハイでは団体と個人上位を目指して、今後の練習も頑張りたいと思います。

* 鳥栖高校 部活動の活動状況 *

◇佐賀県高等学校総合体育大会 結果◇

(体操部) 女子団体総合優勝

女子個人総合 1位 曾根崎しずく 2位 田島やまぶき 3位 弓 和佳乃

女子種目別 跳馬 1位 田島やまぶき

平均台 1位・段違い平行棒 1位・ゆか 1位 曾根崎しずく

(女子バレーボール部) ベスト8

(男子陸上部) 学校総合 7位 400m 3位 森 輝也 110mハードル 6位・やり投げ 6位 前間堅太

4×100mリレー 2位: 平川諒輔、森 輝也、榎 慶高、竹谷俊輝

4×400mリレー 5位: 馬場康太、森 輝也、大場啓太郎、竹谷俊輝

(女子陸上部) 学校総合 6位 400m 1位 田中愛珠 200m 4位・100m 6位 横尾百音

七種競技 3位 西山明世 砲丸投げ 2位・やり投げ 6位 宮原 識水音

4×400mリレー 3位: 田中愛珠、横尾百音、湯浅心瑞、西山明世

4×100mリレー 6位: 田中愛珠、横尾百音、於保逢美、西山明世

※以上の陸上部は北九州地区大会(大分県)出場

(女子空手) 個人形 1位 坂口結香 個人組手 1位 田中胡幸 個人組手 3位 坂口結香(九州大会出場)

(男子空手) 個人組手 6位 塩川太一(九州大会出場)

(女子水泳) 自由形 100m 1位・200m自由形 2位 佐々木きらら(九州大会出場)

◇全国高等学校総合体育大会出場◇

(体操部) 団体 田島やまぶき、弓 和佳乃、粉井 野々華、曾根崎しずく、重松里歩、秋山京華

個人 古賀 向日葵、社家間 美羽

(女子空手) 個人形 坂口結香 個人組手 田中胡幸

※ 全国高等学校総合体育大会 主な結果 ※

(体操部) 女子団体 4位 女子個人総合 2位 曾根崎しずく

(種目別) 平均台 2位・跳馬 4位 曾根崎しずく 跳馬 3位 田島やまぶき

◇全国高等学校総合文化祭出場◇

(書道部) 書道部門の臨書 (放送部) アナウンス部門、朗読部門、ラジオ番組制作部門

(吹奏楽部門) 押川莉弓、木下蒼介、島 瑠翔

(合唱部門) 末田みずほ、今泉風花、岩崎由衣、山内美旺、埋金陽菜、梁井詩音

◇第62回佐賀県吹奏楽大会◇

(吹奏楽部) 金賞



総体激励会にて書道部作成

* 香楠中学校の部活動活動状況 *

◇鳥栖地区中学校総合体育大会 結果◇

(女子バレーボール部) 優勝

(女子バスケットボール部) 準優勝

(サッカー部) 2位

◇佐賀県中学校陸上競技大会 結果◇

(陸上部) 女子総合 優勝 共通女子 4×100mリレー 1位: 小山田 愛生、新藤彩乃、松田千慧、海老原 もえ

共通男子 110mハードル 1位 川上大輝 ※以上2種目は全日本中学校陸上競技選手権大会出場

低学年女子 4×100mリレー 1位: 木村日和、緒方彩恵、増田咲衣、永尾莉乃

低学年女子 80mハードル 1位 海老原 もえ 1年女子 100m 1位 緒方彩恵

◇第38回NHK杯全国中学校放送コンテスト佐賀県大会◇

(放送部) 朗読部門 優秀賞 橋本 紗 アナウンス部門 優秀賞 矢野紗依

◇佐賀県中学校軟式野球大会(マルエス旗)◇

(野球部) 優勝



第35回 鳥栖高等学校大同窓会 開催のご案内

開催日：2021（令和3）年11月28日（日）

午前の部：学校見学ツアー

内 容：懐かしい校内を事前に設定したルートで回って頂きます。
所要時間 30～60分

受 付：9時30分～11時（随時：高校体育館にて）
事前申し込みは不要です

参加者：卒業生とその家族 参加費：無料

午後の部：懇親会

時 間：受付12時30分～/開会13時00分

会 場：ホテル ビアントス 参加費：5,000円

昨年度大同窓会が中止となりましたので、今年も引き続き昭和57年3月卒業生が担当いたします。

当日は安心して開催できることを願っておりますが、**万一、中止とさせていただきます場合は、同窓会ホームページ（アドレスは右下）でお知らせします。**
（大同窓会実行委員会）

～激励用タオルの配布について～

令和2年度は、961名の方の年会費納入のご協力が得られました。皆様方から頂いた年会費は、会報の発行費用及び後輩応援のための激励金として活躍した部活動支援に使わせて貰っておりました。（令和2年度の激励金授与は名簿発行調査のため休止しました。）

今年度は激励金授与に代わり、鳥栖高校・香楠中学校の新入生に激励用タオルをPTAと共同で配布しました。

今後も鳥栖高校、香楠中学校の活躍を応援していきたいと考えておりますが郵送料の値上げ等もあり会報発行に支障を来すことも考えられますので年会費のご協力をお願いいたします。



激励用タオル、(上段)鳥栖高校用
(下段)香楠中学校用

編集後記

今年度より香楠会事務局で事業の運営をする事になりました中山直彦と申します。昨年度まで事務局業務を立派に遂行されてきた森浩一先生、長い間お疲れ様でした。

さて、昨今、どの学校も、校則（俗にいうブラック校則）や制服の見直しを早急に行っています。本校もご多分に漏れず制服の見直しに着手しています。香楠会会員の皆様も制服については思い入れもあるかと思いますが、静かに見守っていただければと思います。また、早くも校内からは百周年ロゴ募集してはどうかなど創立百周年を大々的に盛り上げようと声があがっています。

今後とも鳥栖高校の近況がわかる会報にしていく所存です。香楠会会員の皆様からの激励やご助言を賜りますようよろしくお願い致します。

追伸 香楠会のHP（ホームページ）の更新は、随時行っておりますのをご覧ください。また、鳥栖高校のHPの右下にある白色のバナー「香楠会佐賀県立鳥栖高等学校同窓会」からも入ることができます。

事務局長 中山 直彦

役員総会報告

令和3年5月26日（水）に開催を予定しておりました役員総会は、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を鑑み昨年引き続き書面決議に代えさせていただきました。役員の皆様の賛成を得、議題の全てが可決されたので今年度同窓会活動のスタートを無事に切ることが出来ました。

◎会報決算報告

・会報「香楠会18号」発行に1,994,092円支出。16,928通発送。（令和4年3月発行の同窓会名簿発行の調査を兼ね全員に発送しました。）

・年会費による収入 1,922,000円

※年会費振込用紙の変更について

年会費の振込を昨年度からコンビニエンスストアのみにしました。ご注意ください。これまで郵便局を利用されていた方はお近くのコンビニをご利用ください。

ホームページについて

大同窓会の案内や、鳥栖高のあゆみ、鳥栖高人物録などを掲載しています。近況報告のコーナーなどもありますので、皆様の近況などは是非お寄せください。また、住所変更などの各種変更手続きもホームページより受付できます。多くの会員の方に会報をお届けできるように住所変更がお済みでない方はお知らせください。

ホームページアドレス

<https://kounan-kai.com>



QRコード

メールアドレス

kounan6001@yahoo.co.jp